

令和2年度第2回松戸市立博物館協議会 会議録

日 時	令和3年3月20日（土）14時～16時
場 所	松戸市立博物館 実習室
出席者	<p>（委員）</p> <p>委員 大島 賢一 委員 大西 一樹 委員 山口 恵理子 委員 岡田 啓峙 委員 谷鹿 栄一 委員 百田 清美 委員 濱島 正士 委員 小島 孝夫 委員 日高 慎</p> <p>（事務局）</p> <p>生涯学習部長 片田 雅文 博物館館長 望月 幹夫 博物館職員 8名</p>
議 題	<p>1. 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画骨子（案）について</p> <p>2. 学習資料展－こどもミュージアム「松戸探検90年前からのくらしのうつりかわり」内覧</p>
公開 非公開	公開（傍聴者0人）
配布資料	<p>会議次第</p> <p>【資料】松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）</p> <p>【当日資料】松戸市立博物館設置の目的・基本的性格 他3枚</p> <p>【その他】学習資料展チラシ、まつど文化のMORIパンフレット</p>

【 議事 】

(1) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画骨子（案）について第1章～第3章（P1～P15）まで事務局から説明した。

委員：松戸市文化ホール時代に収集した民俗資料はどうなっているか。

また、国が主導する文化財保存活用地域計画については、社会教育課で策定に向け進めているが、この先どうやって進めていくか方向性が定まっていないうだ。それが国の認定を受けることができた時に、その目標が受けられるのか想定されていない。博物館のリニューアル計画は、文化財保存活用地域計画に盛り込んで、実現に向けて、積極的に働くべきだと思う。

今年度は銚子市と我孫子市が認定を受けている。到達目標をきちんと設定したことに説得力があり、良い評価を受けた。

文化財保存活用地域計画の最終目標から逆算して、計画作りをしていくべきだと思う。

博物館のリニューアルについては、松戸市全体で市民も一緒に考えていくべきだと思う。文化財保存活用地域計画と連携が取れる体制にした方が良い。

事務局：いただいた民俗資料は、博物館で適正に所蔵・管理している。

博物館のリニューアルは市としても大きなテーマであること、コストがかかること、できる限り国・県の補助金を活用できるように進めていく必要があると考えている。しっかりとリニューアル計画と文化財保存活用地域計画を連動させて進めていく必要がある。

委員：観光資源・文化資源などの運用なども視野にいれて、教育委員会全体で調整していくべきである。

委員：3ページの松戸市の歴史的特徴で、松戸市には2つの宿場町があるため、松戸宿や小金宿も掲載したほうが良いのではないかと。

事務局：水戸道中の宿場は、県内では松戸市の2つしかなく貴重であるが、ここでは、1つの時代につき1つの特徴ということで列挙している。

委員：今社会教育課で策定に向け進めている文化財保存活用地域計画には既存文化財が正しく位置付けられていない。松戸市文化ホール時代の民俗資料などもきちんと市の文化財として位置付けて、記載していくべきだと考える。

また、民俗資料もなにかに活用できると良いと思う。

事務局：文化財審議会でも、指定文化財含め、もっともっと保存、活用すべきといわれている。今後考えていかなければならない。

委員：松戸市は文化財の保護が遅れているため、その辺りも考えていくべき。今後、指定を増やし、保存していただきたい。

委員：13ページの「事業目標と使命／ミッション」について、もう少し短い言葉で、キャッチコピーなどをつけて印象付けたほうが、継続して進めていきやすいのではないか。印象深く、定着できるように表現の工夫をしたらどうか。

「事業目標と使命／ミッション」などをわかりやすくすることで、この計画が見やすく、わかりやすくなるのではないか。

事務局：意見をいただいたとおりで、読みやすく印象付けるような表現など工夫していく。

(1) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画骨子(案)について、第4章 基本目標3まで(P16～P27)を事務局から説明した。

委員：24ページの「学校教育」の部分で、学校が博物館に来たくても来ることができない現状もある。どうやって学校が博物館を活用できるかをもう少し具体的に明記してほしい。

事務局：GIGAスクール構想の中で、今年度3月で小学生にタブレットの配布が完了する。ICT活用を通じて、博物館での展開する事業などもタブレットを活用して体験できるような仕組みなども考えていく。

委員：博物館アワードは大変重要だと考える。小規模で期間が限られるため、もっと広げていくべきだと考える。展示などから何かを考えることは、とても大切だと思う。そういった考える力の手助けを学芸員や委員の方々

にやってもらいたい。

委員：作品展の今後のステップアップを検討してほしい。

(1) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画骨子(案)について、第4章の「こども歴史体験ゾーンの整備」(P28～P32)を事務局から説明した。

委員：小学生にはとても良いと思う。中学生・高校生はどのように活用していけばよいのか。その辺りも見えるようにしてもらいたい。

事務局：歴史体験ゾーンは、常設展示・企画展に繋がる要素を持つため、中学生・高校生でも歴史体験ゾーンから他の展示へということで活用できるのではないかと考える。

例えば、着物の素材を調べていくことでも、かなりの知識量が必要である。博物館側が、深く調べていけるような仕掛けを用意しておくこと検討していく。

委員：子どもたちがわからないことがあった時に、博物館に調べに来ることはあるか。

事務局：夏休みなどには、こどもが博物館に来て調べる姿がある。

委員：こども歴史体験ゾーンを早く作ってほしい。駐車場もできれば、親子3世代で利用できるようになる。

委員：野外展示は竪穴住居以外に新しいものは設置されないのか。

委員：小学生が団体見学に来た時に、森の工芸館前にある輪投げのほかにも昔のものなどを使って体を動かせるような仕組みがあると良いと思う。

アクセスの部分で、ユウカリ交通公園はバスが小学校に迎えに来てくれる。そういった仕組みを博物館でも取り入れられると行きやすくなり、見学へのハードルが下がると思う。

また、千駄堀地区文化交流拠点とよく聞くが、教員でも千駄堀地区が文化の拠点であることを知らないと思う。もっとPRしていく必要がある。

事務局：都市計画マスタープランという計画の中でこの千駄堀地域を文化

交流拠点と位置付けている。もっと市民の方々に対してPRしていく必要があると考えている。

事務局：お手元の「パンフレット」は、21世紀の森と広場、森のホール21、博物館の3施設を知ってもらうため、PR用に作成した。

また、八柱駅にある3施設の看板をリニューアルした。21世紀の森と広場中央口にも同様の看板を設置した。今後とも、PRの面でより一層力を入れていきたい。

(1) 松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画骨子(案)について、第4章の「可変的な展示・ニーズに対応した快適な展示空間」(P33～P40)を事務局から説明した。

委員：照明を明るくするとあるが、資料の保存上は問題ないのか。

事務局：彩色された資料など傷みやすいものもあるため、可能な範囲で、または資料複製の利用や定期的な資料の入替えなども検討していきたい。

委員：総合展示について、各時代の解説があるのは良いが、それが今の時代にどうつながっているのかを示していくことが必要だと思う。

松戸はほとんどが台地で、牧が広がっていた。その後作物として選択したのはクワである。その後、梨が盛んになっていった。21世紀梨の栽培が盛んになり、すべて繋がる。常設展示では、何かに気付かせる仕掛けなどを作ることが重要である。

なかなか学校と博物館の連携がなかなかうまくいかないが、学校の先生方がどうやってなにを教えていけばよいかわからなかったこと、博物館の展示の仕方にも問題があったことが考えられる。

リニューアルをしたとしても、その辺りをきちんと考えないと博物館の魅力や面白さがうまく伝わらないと思う。そこまで考えていくべきだと思う。歴史的事実はわかるが、そこからなにを考えるか、発想させるかを伝えることが博物館は弱いと思う。

各地域の歴史的事象が今の松戸市での生活にどうつながっているのかを、上手に示唆し、新たな「博物館の活用」を発信することができれば、松戸

市立博物館の新しい展示方法が全国的にも有名になるのではないかと。

委員：こどもたちへの博物館活用のきっかけをどうやって仕掛けていくか考えるべきである。

近い小学校なら良いが、遠い学校は先生も生徒も来るのが難しい。博物館に来なくても調べることができる仕組みなども考えるべきである。すべての歴史を網羅的に調べることは難しいが、各学区の歴史というのは、調べやすいのではないかと。この地域にはこういった縄文時代の遺跡があることなどを知ることによって、ICTなどの活用も含め、より深く調べることができる仕組みを博物館から提示すると良いと思う。

委員：学芸員の話す内容が少し難しいと感じることがある。こどもたちには、もう少しやさしい内容であると良い。また、こどもたちが説明を聞いている様子や学習している様子などをホームページなどでも発信すると、より一層博物館の魅力がUPするのではないかと。

当日資料4をもとに、庁内ワーキングの意見集約を説明した。

2. 学習資料展—こどもミュージアム「松戸探検90年前からのくらしのうつりかわり」内覧

解説動画を視聴し、展示内覧を実施した。

委員：入口の大きなパネル、ワクワクするような気持ちになって良いと思う。

委員：ワークシートなどが終わったときに、シールなどのちょっとした景品などがあると子どもは喜ぶと思う。

事務局：ワークシートが終わったときには、スタンプを押すようにしているが、シールなどはより良い方法だと思う。

委員：衣食住の昔のくらしの中で、「住」は農家のくらしだけだが、松戸には宿場町が2つあるため、町場のくらしがあるとよかった。

文化財として指定されていれば、模型の建物も壊されることがなかったため、今後は速やかに文化財指定できるように考えてほしい。

3. その他

次回の令和3年度第1回博物館協議会は、令和3年5月～6月で調整する。